

アクモスグループの新鮮情報をお伝えるIRマガジン

ACMOS HIGHWAY

アクモス ハイウェイ

Top Message

挑戦し続けるグッドカンパニー

特集

アクモスグループ 中期経営計画Ⅲ (2022/07-2025/06)

アクモスジャンクション

株式会社フィールドワンがアクモスグループに加わりました
人を育てる「人財育成プログラム」

アクモス 株式会社

証券コード：6888

2022
Vol.19

社是

挑戦する心

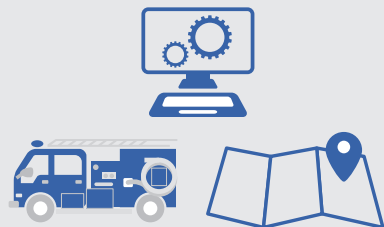
挑戦を心の糧に、失敗を技術の種に

企業理念

アクモスグループは、社会の進歩・発展に貢献するため、仕事を通して心の豊かさと技術の向上を追求し、お客さまに感動していただけるプロフェッショナルなサービスを提供して、持続的な成長を実現します。

当社グループは、アクモス株式会社および子会社4社で構成され、各社の連携ならびにパートナー企業との協力により、お客様のニーズに応えるITソリューション、ITインフラ、ITサービスを提供します。持続的な成長の実現を目指して、輝くICTサービスで社会の向上に貢献すべく活動してまいります。

ITソリューション



SI・ソフトウェア開発
消防防災ソリューション
GISソリューション

ITインフラ



IT基盤・ネットワーク構築
クラウド関連サービス

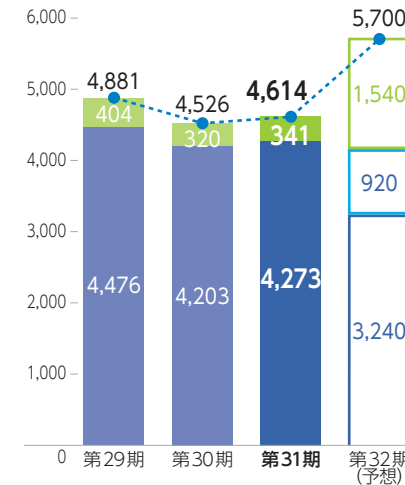
ITサービス



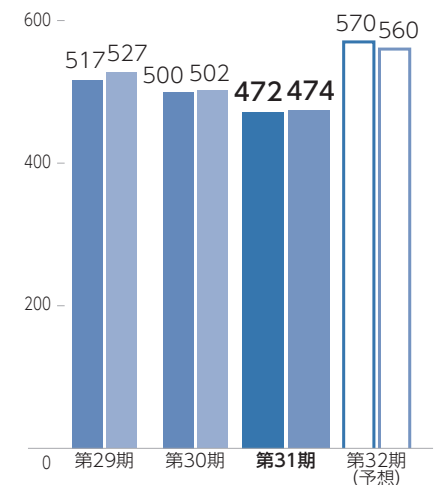
第三者保守サービス
病院情報システム維持管理
サーベイ・アンケート
ビジネスプロセス アウトソーシング (BPO)

※2023年6月期より、事業の報告セグメントを「ITソリューション」、「ITサービス」の2つから、「ITソリューション」、「ITインフラ」、「ITサービス」の3つへと変更いたしました。それに伴い、従来「ITソリューション」に区分しておりました病院情報システム維持管理を「ITサービス」に変更しております。

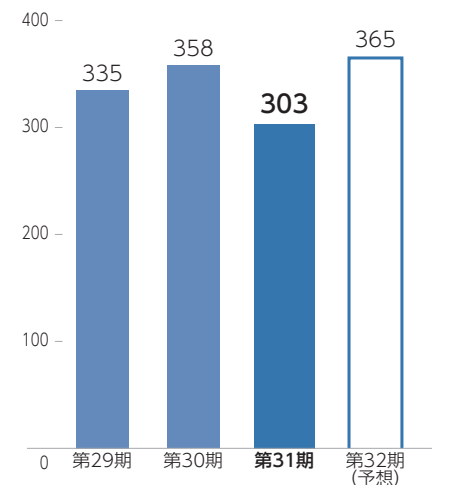
売上高 (単位:百万円)
ITソリューション事業 ITインフラ事業
ITサービス事業 連結



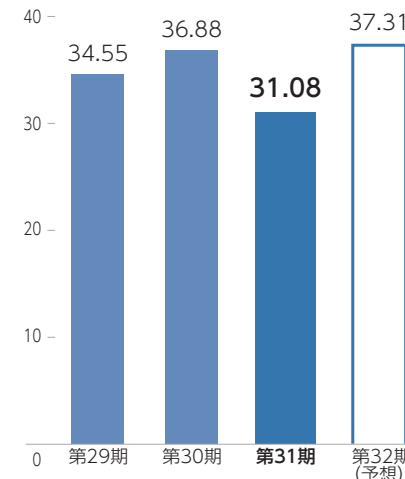
営業利益 経常利益 (単位:百万円)



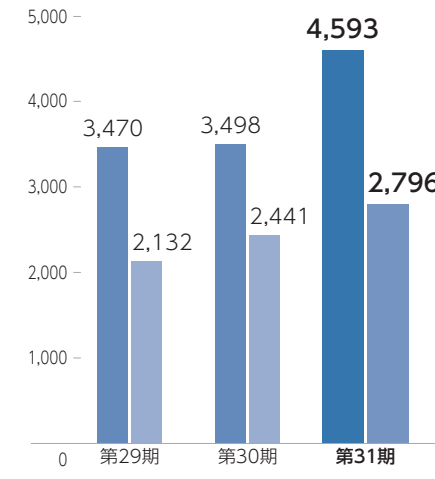
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



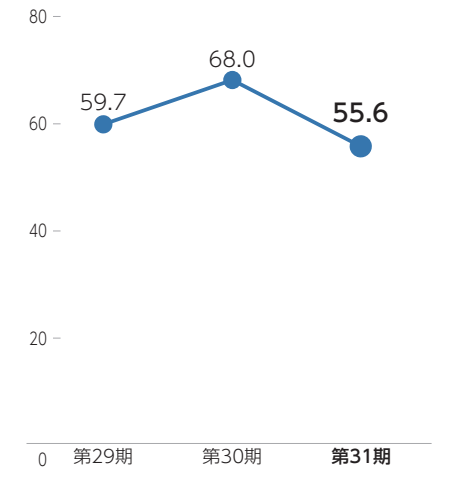
1株当たり当期純利益 (単位:円)



総資産 純資産 (単位:百万円)



自己資本比率 (単位:%)



※第31期の総資産及び純資産、第32期の業績予想には、2022年6月30日付で連結子会社化した株式会社フィールドワンの数字が含まれております。

※自己資本比率=自己資本(純資産-新株予約権-非支配株主持分)/総資産



代表取締役会長 兼 CEO
飯島 秀幸

代表取締役社長 兼 COO
清川 明宏

挑戦し続けるグッドカンパニー

新しい理念とともに 挑戦する心で歩み続ける

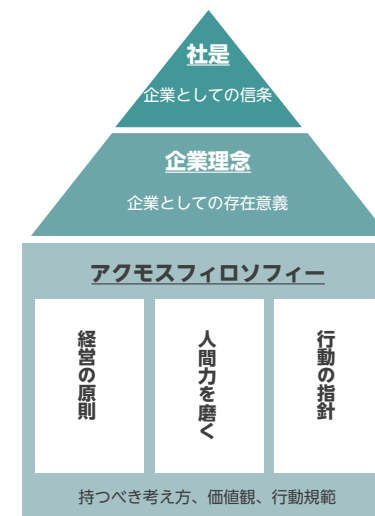
アクモスグループは、中期経営計画Ⅱ（2019/07-2022/06）（以下、「中期経営計画Ⅱ」という。）において「個性豊かなグッドカンパニー」を目指して歩みを進めてまいりました。グッドカンパニーを目指すため、グッドバリューを基本方針の一つとして掲げ、部門別採算制度ウィングシステム（以下、「ウィングシステム」という。）を活用し、付加価値向上のための

施策を徹底した効果もあり、3期連続で営業利益率10%を達成することができました。一方、私どもの人的な資本である社員（グッドメンバーズ）の技術力と人間力を高める“人財育成”に関する具体的な取り組みは、次の中期経営計画の期間に委ねることにいたしました。「人を育てる」という大きなテーマに取り組むにあたり、会社の根幹となり、人財育成の土台となる新しい理念体系を発表いたしました。

アクモスグループの新理念体系は、「社是」、「企業理念」、「アクモスフィロソフィー」で構成されています。

まず「社是」は、「挑戦する心」としました。私たちは変化を好まず、今の生活を変えたくないと思心でどこかと思っています。しかし、世の中は絶えず変化し、技術の進歩は私たちをすぐに追い越してしまいます。だからこそ失敗を恐れずに「挑戦する心」を持ち続けてほしいのです。人は誰しも挑戦しては失敗するものですが、失敗からの学びは何物にも代えがたい私たちの財産になるからです。そして「企業理念」には、重要なステークホルダーであるお客様と社会と社員への貢献を会社の存在意義としました。最後に「アクモスフィロソフィー」は、私たちが持つべき考え方や価値観、行動規範からなっています。「経営の原則」「行動の指針」はその言葉通りのことを示したもので、「人間力を磨く」は、アクモスのメンバーとして人間力を高めるための指針を示しています。

これらの新理念体系は、グループの社員に浸透して初めて意義のあるものとなります。経営陣・社員に繰り返し働きかけ、浸透させていきたいと思ひます。そして、経営者・社員がさらにレベルアップし、人財育成の礎になることを目指していきます。



第31期のご報告

厳しい環境のなか、発展にむけた取り組みを推進

第31期は、中期経営計画Ⅱの最終年として、テレワーク需要増に伴い重要となる「情報セキュリティ関連ソリューション」や自然災害被害の未然防止に寄与する「消防・防災関連ソリューション」などの製品・サービスの開発を進めてまいりました。中期経営計画Ⅱの3年間は、新型コロナウイルス感染症を中心に事業環境の大きな変化がグループ各社に様々な影響を与えたことも事実でありました。コロナ禍においても収益力を維持するため、以前より進めてまいりました「時間当たり付加価値」を指標とするウィングシステムを活用した付加価値向上策をグ

ループ全社で強力に推進してまいりました。

以上の結果、第31期の連結業績は、売上高4,614百万円（前期比2.0％増）、営業利益は472百万円（前期比5.5％減）、経常利益は474百万円（前期比5.6％減）、親会社株主に帰属する当期純利益は303百万円（前期比15.4％減）となりました。経営指標として掲げている営業利益率は10.2％（前期11.1％）、株主資本利益率（ROE）は12.3％（前期16.1％）となりました。売上高は、当初計画値には届かなかったものの、お客様ニーズを取り込んだ営業活動を行い、前期比では増収となりました。営業利益に関しては、第31期末に行ったM&A（※1）に関する費用の影響もあり減益となりましたが、経営体質強化のための投資として今後の成長につなげてまいります。

中期経営計画Ⅲ、第32期の展望

挑戦を続け、進化を目指す

中期経営計画Ⅱでは「発展」をテーマに、専門特化を深耕し、新サービスでお客様を獲得すべく、グループ各社が事業を進めてまいりました。残念ながら、コロナ禍の影響もあり当初発表した中期経営計画Ⅱの経営目標は未達（売上高は当初計画比18％減、営業利益は当初計画比16％減）となりましたが、グループ各社の成

長戦略が少しずつ効果を上げはじめ、また、新たな会社をグループに迎え、グループの事業基盤の整備（※2）を進めてまいりましたので、進化のための準備は整ってきたのではないかと考えております。

長期ビジョン2025の第3段階としてスタートした中期経営計画Ⅲ（2022/07～2025/06）（以下、「中期経営計画Ⅲ」という。）では、「挑戦し続けるグッドカンパニー」をグループ共通のビジョンとして掲げました。テーマは「進化」とし、収益の柱となる自社ブランド事業の創出を実現することで、外部環境に左右されない成長企業への進化を目指してまいります。

アクモスグループの理念体系を一新したことに伴い、社是とした「挑戦する心」のとおり、失敗を恐れず挑戦することができる環境作りに取り組んでまいります。具体的には、人材育成制度の刷新により、まず、アクモス株式会社の新入社員の研修期間を今の3か月から最長1年間に延長し、技術だけではなく向上心や挑戦心も養うことのできる研修制度を2022年4月より開始いたしました。また管理職についても、若手社員のチャレンジ精神を引き出し、成長を支援する人材となるための研修をスタートさせております。

第32期は中期経営計画Ⅲの初年度として、ウィングシステムによる採算管理の継続、人材採用・育成の強化や生産性向上への取り組みとともに、付加価値アップによる既存事業の収益力向上および成長の種となる自社サービスの創出・展開を進めてまいります。なお、新型コロナウイルス感染症の流行は終わりの見えない状況が続いておりますので、前期までに引き続き、Webマーケティング活用やグループ各社の強みを武器に営業を推進して業務量の確保に努めるとともに、Withコロナ下での働く環境の整備を進めてまいります。

以上のことから、第32期の連結業績は、売上高5,700百万円（前期比23.5％増）、営業利益570百万円（前期比20.6％増）、経常利益560百万円（前期比18.0％増）、親会社株主に帰属する当期純利益365百万円（前期比20.2％増）を予想しております。経営指標については、営業利益率10％、株主資本利益率（ROE）17％を目指して進んでまいります。なお、新型コロナウイルス感染症の影響などにより予想は変動する可能性がございます。業績予想の修正が必要な場合には、速やかに開示いたします。

中期経営計画Ⅲについては、7、8ページで詳しくご説明しています。

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社では、株主のみなさまに対する安定的な配当の実現を中長期的な重点課題として位置付けており、配当方針は連結の親会社株主に帰属する当期純利益の30％以上を目標としております。この配当方針に基づき、第31期の期末配当は1株当たり普通配当11円、株式公開25周年の記念配当2円をあわせて1株当たり13円（配当性向41.8％）とさせていただきます。第32期の期末配当は、1株当たり12円（配当性向32.2％）を予定しております。グループ社員一丸となって挑戦し続けるグッドカンパニーとして企業価値の向上と持続的な成長を図り、さらなる発展を目指して進んでまいります。株主のみなさまには、引き続きご理解とご支援を賜りますよう深くお願い申し上げます。

※1 2022年6月30日付で株式会社フィールドワンの株式を取得し、連結子会社化しました。株式会社フィールドワンについては11ページをご参照ください。

※2 2022年7月1日付でアクモス株式会社が、旧ACMOSソーシングサービス株式会社からシステムソリューション事業部の事業を譲り受け、旧ACMOSソーシングサービス株式会社は同日付で商号をアクモスメディカルズ株式会社に変更しました。

中期経営計画Ⅲでは「挑戦し続けるグッドカンパニー」をビジョンに掲げ、外部環境に左右されない内部成長の実現を目指してまいります。

挑戦し続けるグッドカンパニー

Business（事業）× Members（人財）× Value（付加価値）
 3つの分野でGoodに挑戦し、外部環境に左右されない成長企業に進化

テーマ

進化

収益の柱となる
 自社ブランド事業の創出

経営目標 KPI

	第32期 2023年6月期	第33期 2024年6月期	第34期 2025年6月期
売上高	5,700百万円	6,000百万円	6,300百万円
営業利益	570百万円	640百万円	710百万円
経常利益	560百万円	630百万円	700百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	365百万円	410百万円	460百万円
株主資本利益率（ROE）	17%	16%	16%
営業利益率	10%	11%	11%

基本方針

Good Business

成長領域の軸をセキュリティからクラウドに拡大し、
 お客様のニーズに対応する最適なICTサービスを提供する
 M&A投資を促進

Good Members

社員の挑戦する心を育み、人財成長の仕組みを構築して、
 会社と社員が挑戦し続けるための基盤を確立する

Good Value

基準年度である2022年6月期との比較で、
 中期経営計画の3期の各事業年度の売上高、営業利益で増収、増益を目指す

事業戦略

収益性、成長性を軸に、ポジションに合わせた事業戦略を強化。

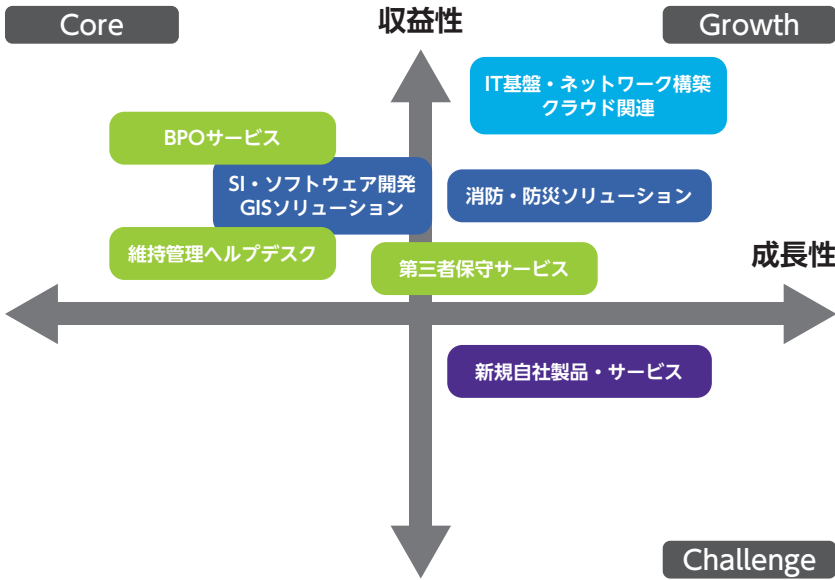
Growth、Challengeの領域を中心に事業投資を推進。Coreの領域は、各事業のバリューアップを目指す。

- ITソリューション事業
- ITインフラ事業
- ITサービス事業

重点施策

事業投資推進		IT基盤・ネットワーク構築	・首都圏地区での業務拡大 ・M&Aの活用
		クラウド領域ビジネス	・クラウド化ニーズへの対応強化 ・新規クラウドサービスの創出
		第三者保守サービス	・リファービッシュ※（再生）品活用 ・グループ内外アライアンス強化
バリューアップ		SI・ソフトウェア開発	・効率化、新たな付加価値の提供
		GISソリューション 統計・森林	・機能追加で拡張強化
		BPOサービス	・コロナ禍の影響からの転換
		病院システム維持管理	・サポート強化で効率化推進
新規開拓		全事業分野	・新規ユーザー開拓、既存ユーザー深堀
収益の柱となる事業の創出		新製品・サービス	・防災・業務効率化等

※リファービッシュ品とは、中古の機器を整備し、新品に準じる状態に再生した機器のこと。



連結財務諸表

■ 連結貸借対照表

(単位：千円)		
科 目	第30期 2021年6月30日	第31期 2022年6月30日
資産の部		
流動資産	3,068,587	4,060,056
固定資産	429,727	533,668
有形固定資産	185,001	191,674
無形固定資産	49,688	58,481
投資その他の資産	195,037	283,512
資産合計	3,498,314	4,593,725
負債の部		
流動負債	1,051,029	1,318,490
固定負債	6,086	478,271
負債合計	1,057,116	1,796,762
純資産の部		
株主資本	2,349,520	2,554,899
資本金	693,250	693,250
資本剰余金	1,201,533	1,208,265
利益剰余金	502,963	699,211
自己株式	△48,226	△45,827
その他の包括利益累計額	28,132	△251
非支配株主持分	63,545	242,314
純資産合計	2,441,198	2,796,963
負債純資産合計	3,498,314	4,593,725

Point 1	資産の部
	資産は、前期末に比べ1,095百万円増加しています。※ 流動資産の増加の主な理由は、現金及び預金の増加479百万円、受取手形及び売掛金の増加145百万円、商品の増加342百万円、前払費用の増加36百万円があったことによるものです。 固定資産の増加の主な理由は、保険積立金の増加35百万円、保証金及び敷金の増加42百万円、繰延税金資産の増加41百万円の一方、投資有価証券の減少40百万円があったことによるものです。

Point 2	負債の部
	負債は、前期末に比べ739百万円増加しています。※ 流動負債の増加の主な理由は、買掛金の増加73百万円、短期借入金の増加20百万円、前受金の増加76百万円、未払法人税等の増加35百万円があったことによるものです。 固定負債の増加の主な理由は、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）の増加491百万円があったことによるものです。

Point 3	純資産の部
	純資産は、前期末に比べ355百万円増加しています。 純資産の増加の主な理由は、親会社株主に帰属する当期純利益303百万円、その他有価証券評価差額金の減少28百万円、配当金の支払い107百万円、株式会社フィールドワンを連結子会社としたことによる非支配株主持分の増加178百万円によるものです。

※2022年6月30日付で株式会社フィールドワンを連結子会社とし、その貸借対照表を連結したため、資産及び負債の項目が増加しております。

■ 連結損益計算書

(単位：千円)		
科 目	第30期 (自 2020年7月 1日 至 2021年6月30日)	第31期 (自 2021年7月 1日 至 2022年6月30日)
売上高	4,526,256	4,614,931
売上原価	2,866,575	2,857,532
売上総利益	1,659,680	1,757,398
販売費及び一般管理費	1,159,322	1,284,583
営業利益	500,358	472,815
営業外収益	3,814	3,386
営業外費用	1,752	1,775
経常利益	502,420	474,425
特別利益	23	45,089
特別損失	—	10,942
税金等調整前当期純利益	502,443	508,572
法人税等	135,989	201,548
当期純利益	366,454	307,024
非支配株主に帰属する当期純利益	7,524	3,481
親会社株主に帰属する当期純利益	358,930	303,542

Point	連結損益計算書
	ITソリューション事業において官公庁のネットワーク関連を中心に受注が伸長したこと等により、売上高は4,614百万円（前期比2.0％増）となりました。なお、新規子会社取得に伴い発生した費用43百万円が連結上で費用計上されたこと等から、営業利益は472百万円（前期比5.5％減）、経常利益は474百万円（前期比5.6％減）となりました。 特別利益として投資有価証券売却益45百万円、特別損失として事務所移転費用3百万円、助成金返還引当金繰入額3百万円、減損損失3百万円を計上し、親会社株主に帰属する当期純利益は303百万円（前期比15.4％減）となりました。

■ 連結包括利益計算書

(単位：千円)		
科 目	第30期 (自 2020年7月 1日 至 2021年6月30日)	第31期 (自 2021年7月 1日 至 2022年6月30日)
当期純利益	366,454	307,024
その他の包括利益	21,000	△ 28,383
包括利益	387,455	278,641
(内訳) 親会社株主に係る包括利益	379,931	275,159
非支配株主に係る包括利益	7,524	3,481

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)		
科 目	第30期 (自 2020年7月 1日 至 2021年6月30日)	第31期 (自 2021年7月 1日 至 2022年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	290,479	358,891
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 26,430	△ 341,494
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 203,651	402,175
現金及び現金同等物の増減額	60,397	419,572
現金及び現金同等物の期首残高	2,240,602	2,300,999
現金及び現金同等物の期末残高	2,300,999	2,720,572

Point	連結キャッシュ・フロー計算書
	（営業活動によるキャッシュ・フロー） 法人税等の支払額171百万円があった一方、税金等調整前当期純利益508百万円、仕入債務の増加17百万円、非資金項目である減価償却費42百万円があったことによるものです。 （投資活動によるキャッシュ・フロー） 子会社株式の取得による支出376百万円、投資有価証券の売却による収入69百万円、無形固定資産の取得による支出23百万円によるものです。 （財務活動によるキャッシュ・フロー） 短期借入金の純増額20百万円、長期借入金の純増額491百万円、配当金の支払額106百万円があったことによるものです。

株式会社フィールドワンが アクモスグループに加わりました

2022年6月30日付で株式会社フィールドワンを連結子会社化しました。

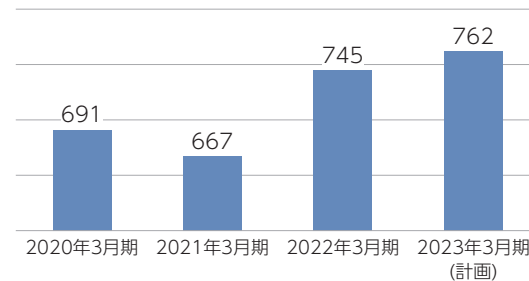
株式会社フィールドワンは、1982年創業のコンピュータ・ハードウェア保守サービス専門会社です。メーカーやベンダーがサポートを終了したEOSL（End of Service Life）製品の保守サービスのほか修理に必要なパーツの供給を行う第三者保守サービス、レガシーシステムの仮想化やシステム更新等の構築分野の業務にも取り組み、多くのお客様企業のサーバー機器等の安定稼働を実現してきました。

今後はアクモスグループにおいて、ITコスト低減や環境問題への配慮等、戦略的なIT投資を求めるお客様に最適なITサービスの提供を進めていきます。



左から、アクモス株式会社 西山取締役、深作取締役、清川社長、飯島会長、株式会社フィールドワン 新宮社長、鈴木副社長、狩集取締役

株式会社フィールドワン 売上高推移 (単位:百万円)



株式会社フィールドワン

所在地 : 東京都新宿区原町3-87-4 NTビル1階

代表者 : 代表取締役社長 新宮 邦彦

事業内容 : ハードウェア保守(第三者保守サービス)

資本金 : 8,000万円



アクモス株式会社 人財育成プログラム

アクモスグループは、中期経営計画Ⅲ(2022/07-2025/06)の基本方針の一つに「**社員の挑戦する心を育み、人財成長の仕組みを構築して、会社と社員が挑戦し続けるための基盤を確立する**」と掲げ、人財育成に注力していく方針です。

アクモス株式会社では、新入社員と管理職を中心とした人財育成プログラムを構築・推進しています。

新入社員については、2022年4月入社のエンジニア職から従来3ヶ月間だった研修を最長12ヶ月間に延長し、技術力とともに人間力を高めた「自律した社員」の育成を進めています。

管理職については、人財育成の重要性を再認識して組織力を向上させるため、評価面で人財育成のウェイトを上げ、「人財開発のできる管理職」育成のためにテーマ別研修を実施しています。

今後は人財育成プログラムの対象を広げ、人財の成長が事業の成長を生むサイクルの実現を目指して邁進していきます。



2022年4月入社のエンジニア職の研修の様子

株主アンケート結果報告

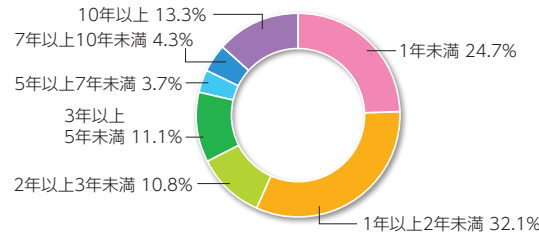
2021年秋発行のアクモスハイウェイに同封の「株主さまアンケート」につきまして、多くのみなさまから貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。

アンケート実施概要

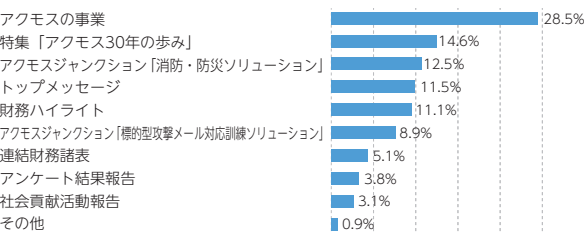
実施期間：2021年9月28日～2021年10月31日

ご回答いただいた株主さま 476名 (全体の6.3%)

Q1 ▶▶▶ 当社の株式の保有期間



Q3 ▶▶▶ 前回の「アクモスハイウェイ」で興味をもたれた記事をお選びください (複数回答可)



社会貢献活動報告

当社が募金活動による寄付を通じて活動を支援させていただいている特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンからレポートをいただきました。

ピースウィンズ・ジャパン (PWJ) 南スーダン支援レポート

いつもご支援を賜り、誠にありがとうございます。PWJは、新型コロナウイルス感染症の流行が懸念された国内避難民キャンプや帰還民受入れコミュニティで給水・手洗い設備の整備、衛生啓発活動を実施しました。また、医療施設、公共施設では給水施設の建設や改修、職員への感染予防対策研修、衛生キットの配付等も行いました。南スーダンの人々のため、PWJは今後も支援を届けてまいります。引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

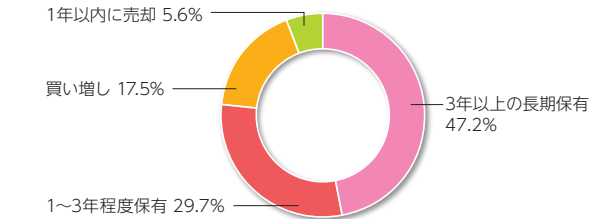


医療施設での衛生キット配付



市場に設置した給水所

Q2 ▶▶▶ 今後の当社株式の保有についての方針をお聞かせください



株主さまからのご意見

・きびしい時期ではありますが、さらなる飛躍を期待しています。(50代男性)

・このご時世大変だとは思いますが、末長く地に足をつけた経営をよろしくお願いします。(30代男性)

・スタンダード市場での安定した活躍を期待しています。(50代女性)

会社概要 / 株式の状況

■ 会社の概況 (2022年6月30日現在)

商号	アクモス株式会社
設立	1991年8月23日
資本金	6億9,325万円
社員数	連結420名、単体269名
主な事業	・ITソリューション SI・ソフトウェア開発 消防防災ソリューション GISソリューション ・ITインフラ IT基盤・ネットワーク構築 クラウド関連サービス ・ITサービス 第三者保守サービス 病院情報システム維持管理 サーベイ・アンケート ビジネスプロセス アウトソーシング

■ 役員の状況 (2022年9月27日現在)

代表取締役会長 兼 CEO	飯 島 秀 幸
代表取締役社長 兼 COO	清 川 明 宏
取締役副社長 兼 CTO	深 作 耕 一
社外取締役 (常勤監査等委員)	西 山 達 男
社外取締役 (監査等委員)	板 垣 雄 士
社外取締役 (監査等委員)	松 尾 恭 志
取締役 (監査等委員)	金 子 登志雄

※第31回定時株主総会終了後の状況を記載しております。

■ 主な事業所

本社	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町三丁目26番地8 神田小川町三丁目ビル TEL：03-5217-3121
茨城本部	〒310-0015 茨城県水戸市宮町一丁目2番4号 マイムビル10F TEL：029-291-3410
茨城開発センター	〒319-1112 茨城県那珂郡東海村村松2713番地7 TEL：029-270-5555
つくばオフィス	〒300-0847 茨城県土浦市卸町一丁目1番1号 関鉄つくばビル2F TEL：029-834-3391

■ 株式の状況 (2022年6月30日現在)

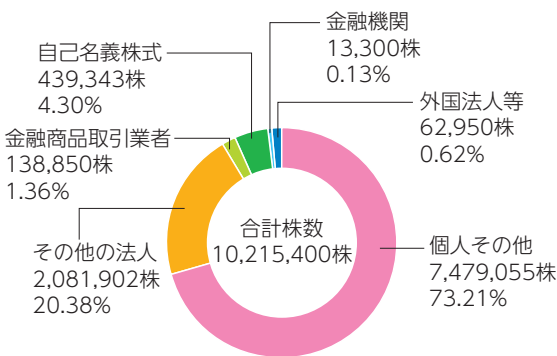
発行可能株式総数	32,300,000 株
発行済株式総数	10,215,400 株
議決権を有する株主数	6,779 名

上位10名の株主の状況

株主名	持株数 (株)
コンセーユ・ティ・アイ株式会社	1,770,000
飯島秀幸	1,014,400
アクモスグループ社員持株会	324,228
光通信株式会社	206,100
外池栄一郎	120,000
金子登志雄	96,000
楽天証券株式会社	64,800
鷲見憲司	51,000
印藤澄子	46,900
西川信隆	43,500

※自己株式を除く発行済株式総数の上位10名の株主を記載しております。

所有者別株式分布状況



事業年度	7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月下旬
公告方法	電子公告 https://www.acmos.co.jp/ir/brief_note.html (電子公告により行うことが事故その他やむをえない事情によりできない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。)
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先※	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電 話：0120-232-711(通話料無料) 郵送先： 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

- 株券の電子化に伴い、株主様の住所変更、その他の各種手続きについては、原則として、証券取引口座を開設されている証券会社等で承ることになっております。
- 特別口座に記録された株式の各種手続きについては、三菱UFJ信託銀行株式会社が証券代行部にお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



環境に配慮した用紙、インクを採用しています。



証券コード：6888



本社
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町三丁目26番地8
神田小川町三丁目ビル
TEL：03-5217-3121
FAX：03-5217-3122

株主総会資料の電子提供制度に関するご案内

会社法改正により、2022年9月1日に株主総会資料の電子提供制度が施行されました。この制度においては、インターネットの利用が困難であるなどの株主さまの事情に配慮して、「書面交付請求」の手続きも設けられています。

当社は、2023年3月以降に開催する株主総会から、株主総会資料を当社ウェブサイト等に掲載させていただきます。

2023年9月定時株主総会については、株主総会資料の書面での受領を希望される株主さまは、2023年6月末日*までに「書面交付請求」をしていただく必要があります。

*株主総会の基準日がお手続きの期限です。お手続きが間に合わなかった場合は、書面交付はその次の株主総会からとなります。なお、お手続きの受付は、2022年9月1日から開始しております。

お問い合わせ先

アクモス株式を保有されている口座がある証券会社 または
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電子提供制度専用ダイヤル 0120-696-505

9:00 ～ 17:00 (土曜・日曜・祝日を除く)
<https://www.tr.mufg.jp/daikou/denshi.html>



アクモス 株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町三丁目26番地8 神田小川町三丁目ビル
TEL : 03-5217-3121 FAX : 03-5217-3122 <https://www.acmos.co.jp/>

編集・発行 アクモス株式会社 経営企画管理部
制作 宝印刷株式会社